



平成 25 年度
大学院
医学研究科医科学専攻
(修士課程)

教育要項 (シラバス)

— 目 次 —

アドミッションポリシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
大学院学則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
教育方法、研究指導の方法及び修了要件・・・・・・・・	16
加入保険等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
授業時間割表	
シラバス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
選択科目履修届・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55

アドミッションポリシー

本学医学研究科の理念と目的は、医学に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与するとともに、専攻分野に関する研究指導者を養成することにあります。

修士課程では、このような本学医学研究科の理念に基づきつつ、設置の趣旨である「医学部医学科以外の理科系学部生命科学関連学科の卒業生（学士）」が医科学研究遂行に必要な医科学知識を習得して医科学研究の土台作りができる教育課程」を目指し、下記のような意欲のある方々の入学を期待します。

- 医科学的知見を学び、将来医科学研究を進める意欲のある人
- 医科学領域において、基礎的あるいは臨床的な先端的研究を推進する意欲のある人
- 基礎的な医科学研究成果を臨床応用する意欲のある人
- 独創的研究によって、従来の学術水準に新たな知見を加え、医科学研究の指導者として活躍しようとする人

東京医科大学大学院学則

第1章 総則

(目的)

第1条 東京医科大学大学院（以下「本大学院」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、先端的な研究の高度化を推進し、新しい時代に即応した人材を育成することを目的とする。

(課程)

第2条 本大学院の課程は、修士課程及び博士課程とする。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的とする。

3 博士課程は、学術の理論及び応用を教授し、創造性、活力、人間性豊かな総合判断力、かつ国際的な視点を有し、医学の発展を通して人類に貢献・寄与しうる指導力を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。

(研究科及び専攻)

第3条 本大学院に、医学研究科（以下「研究科」という。）を設け、次の専攻を置く。

(1) 医科学専攻

医科学専攻は、基礎医科学分野の知識を統合的に習得させ、医科学研究を実践することで、多様な医学・医療関連の分野で活躍できる医学研究者及び医学研究に関連する業務に携わる人材を養成する。

(2) 形態系専攻

形態系専攻は、人体構造学、組織・神経解剖学、人体病理学、分子病理学及び微生物学の5分野からなり、人体の臓器、組織の解剖学的研究、疾患に対する病理学的アプローチまで主に形態学的観点から人体の構造と病態の解明に取組み、基礎及び臨床医学の発展に寄与できる能力を有する人材を養成する。

(3) 機能系専攻

機能系専攻は、細胞生理学、神経生理学、生化学、薬理学及び免疫学の5分野からなり薬物の生体に与える作用機序の解明、中枢神経系への生理学的アプローチ、免疫反応の仕組みなど生体機能、生体防御に関わる研究を行い、研究指導者や大学等の教員となりうる人材を養成する。

(4) 社会医学系専攻

社会医学系専攻は、公衆衛生学、健康増進スポーツ医学、法医学、医療の質・安全管理学及び医学教育学の5分野からなり、疫学的研究、心身の健康維持、医療事故の現状と予防対策を構築できる人材を養成するとともに、新しい教育の開発や導入、教育活動の改革を促進できる能力を養成する。

(5) 内科系専攻

内科系専攻は、血液・呼吸器内科学、循環器内科学、糖尿病・内分泌・リウマチ膠原病・神経内科学、消化器内科学、呼吸器内科学・代謝内科学、精神医学、小児科学、皮膚科学、放射線医学、臨床検査医学及び加齢医学の11分野からなり、各分野の医療を実践できる専門医認定

医と高度な水準の医学研究に基づいた研究マインドと指導力を兼ね備えた研究指導者を養成する。

(6) 外科系専攻

外科系専攻は、呼吸器・甲状腺外科学、心臓・血管外科学、消化器外科学・小児外科学、消化器外科学・一般外科学、消化器外科学・移植外科学、整形外科学、眼科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、産科婦人科学、麻酔科学・生体侵襲制御学、脳神経外科学、口腔外科学、形成外科学及び緊急・災害医学の 15 分野からなり、疾病に対して観血的手技を用いて人体の回復を図ることが中心となる。したがって、外科学的な基本知識と技能を学び、その知識、技能を基に実践につながる応用力、未解明分野を研究する臨床医及び研究指導者を養成する。

(7) 社会人大学院・臨床研究系専攻

社会人大学院・臨床研究系専攻は、血液・呼吸器内科学、循環器内科学、糖尿病・内分泌・リウマチ膠原病・神経内科学、消化器内科学、呼吸器内科学・代謝内科学、精神医学、小児科学、皮膚科学、放射線医学、臨床検査医学、加齢医学、呼吸器・甲状腺外科学、心臓・血管外科学、消化器外科学・小児外科学、消化器外科学・一般外科学、消化器外科学・移植外科学、整形外科学、眼科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、産科婦人科学、麻酔科学・生体侵襲制御学、脳神経外科学、口腔外科学、形成外科学及び緊急・災害医学の 26 分野からなり、優秀な人材を求めため広く社会に門戸を開き、優秀な臨床医及び研究指導者を養成する。

(8) 社会人大学院・研究系専攻

社会人大学院・研究系専攻は、人体構造学、組織・神経解剖学、人体病理学、分子病理学、微生物学、細胞生理学、神経生理学、生化学、薬理学、免疫学、公衆衛生学、健康増進スポーツ医学、法医学、医療の質・安全管理学及び医学教育学の 15 分野からなり優秀な人材を求めため広く社会に門戸を開き、優秀な医学教育者及び研究指導者を養成する。

(学生定員)

第4条 医学研究科の各専攻の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

課程	専攻名	入学定員	収容定員
修士課程	医科学専攻	10名	20名
博士課程	形態系専攻	10名	40名
	機能系専攻	10名	40名
	社会医学系専攻	4名	16名
	内科系専攻	10名	40名
	外科系専攻	10名	40名
	社会人大学院・臨床研究系専攻	20名	80名
	社会人大学院・研究系専攻	4名	16名
	小計	68名	272名
	合計	78名	292名

第2章 修業年限、在学年限、学年及び学期等

(修業年限)

第5条 標準修業年限は、修士課程にあつては2年、博士課程にあつては4年とする。

(在学年限)

第6条 在学年限は、修士課程にあつては4年を、博士課程にあつては8年を超えることはできない。

(学年、学期及び休業日)

第7条 学年、学期及び休業日は、東京医科大学学則（以下「大学学則」という。）第16条、第17条及び第18条の規定を準用する。

第3章 教育方法、授業科目及び単位並びに履修方法等

(教育方法)

第8条 本大学院における教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行うものとする。

(授業科目及び単位)

第9条 医科学専攻の授業科目及び単位等は、別表1のとおりとする。

2 第3条第2号から第8号までの各専攻の授業科目及び単位等は、別表2のとおりとする。

(履修方法等)

第10条 本大学院における研究指導の内容及び履修方法等は、別に定める。

(成績の評価)

第11条 成績の評価は、A・B・C・Dの4種とし、A・B・Cを合格、Dを不合格とする。

(他の大学院等における授業科目の履修)

第12条 本大学院の教育上特に有益と認めるときは、他の大学院、研究所等の長と協議のうえ、学生に当該大学院、研究所等における授業科目の授業又は研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程の学生については、当該研究指導を受けさせることができる期間は、1年を超えないものとする。

2 前項の規定により修得した授業科目及び単位については、博士課程においては8単位を超えない範囲で、修士課程においては4単位を超えない範囲で、本大学院において相当する授業科目及び単位を修得したものとみなすことができる。

第4章 課程修了要件及び学位

(課程の修了要件)

第13条 修士課程の修了要件は、本大学院修士課程に2年以上在学して30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学年数に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

2 博士課程の修了要件は、本大学院博士課程に4年以上在学して30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学年数に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

(課程修了の認定及び成績評価)

第14条 課程修了の認定は、研究科長が行う。

2 学位論文の審査及び最終試験の成績評価は、第49条に定める研究科委員会の審査に基づいて、研究科長が行う。

3 科目試験、学位論文の審査及び最終試験の成績評価の基準は、研究科委員会の定めるところによる。
(学位授与)

第15条 学長は、修士課程を修了した者には、修士(医科学)の学位を、博士課程を修了した者には、博士(医学)の学位を授与する。

第16条 第13条第2項及び前条(修士課程に係る部分を除く。)の規定により学位を授与される者と同年以上の内容を有する論文を提出し、その審査及び試験等に合格した者に対しても、博士(医学)の学位を授与することができる。

第17条 学位の授与に関して必要な事項は、別に定める。

第5章 入学、再入学及び転入学

(入学資格)

第18条 修士課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 専修学校の専門課程を修了した者で、高度専門士の称号を授与されたもの
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 昭和28年文部省告示第5号をもって文部科学大臣の指定した者
- (7) 学校教育法第68条の2第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (8) 研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

2 博士課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

- (1) 大学(6年制の医学、歯学、獣医学又は薬学の課程。以下この項において同じ。)を卒業した者
- (2) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (3) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (6) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 昭和30年文部省告示第39号をもって文部科学大臣の指定した者
- (8) 平成元年文部省告示第118号をもって文部科学大臣の指定した者
- (9) 研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

(入学の時期)

第19条 入学の時期は、原則として学年の始めとする。

(入学の出願)

第20条 大学院の入学志願者は、所定の入学願書に所定の入学考査料及び別に定める書類を添えて、指定する期日までに本学に願出しなければならない。

(入学者の選考)

第21条 入学者の選考は、論文審査、面接、その他の方法による。

2 その他入学者の選考について必要な事項は、別に定める。

(入学手続)

第22条 前条の選考に合格した者は、指定する期日までに、入学金及び授業料を納入するとともに所定の書類を添えて入学の手続きを完了しなければならない。

(入学の許可)

第23条 学長は、前条の手続きを完了した者につき、入学を許可する。

(再入学)

第24条 本大学院を中途において退学した者で、再び同一専攻に入学を志願する者には、退学後2年以内に限り、これを許可することがある。

2 再入学した者の在籍年次、既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会において決定する。

(転入学)

第25条 他の大学院の学生が本大学院に転入学しようとするときは、当該大学院設置の大学の学長又は所属研究科長の紹介状を添えて、学長に転入学願を提出しなければならない。

2 前項の願出があったときは、欠員ある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

3 転入学した者の在籍年次、既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会において決定する。

第6章 休学、転学、退学及び除籍等

(休学)

第26条 疾病その他やむを得ない事由により、引き続き3か月以上修学できない見込みの者は、所定の手続により、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病等のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第27条 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、やむを得ない事由があるときは、許可を得て更に1年以内に限り、期間を延長することができる。

2 休学の期間は、修士課程にあつては通算して2年、博士課程にあつては通算して3年を超えることができない。

3 休学の期間は、修業年限並びに在学年限に算入しない。

(復学)

第28条 休学期間が満了するとき、及び休学期間中であっても、その事由が消滅した場合には、保証人連署のうえ、所定の復学願を学長に提出し、研究科委員会の議を経て学長の許可を得なければならない。

2 疾病が治癒して復学する者は、本大学病院の健康診断書を、その他の場合は、その事由が解消された証明書又は理由書を添付しなければならない。

(転学)

第29条 本大学院から他の大学院へ転学しようとする者は、所定の手続により、学長に願い出て許可を受けなければならない。

(退学)

第30条 退学しようとする者は、その事由を付して、保証人連署のうえ、所定の様式により学長に願い出て、許可を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、学長は、学生が疾病その他の事由で成業の見込みがないと認めたときは、退学を命ずることができる。

(除籍)

第31条 次の各号の一に該当する者は、研究科委員会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 学生納付金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第6条に定める在学年限を超えた者
- (3) 第27条第2項に定める休学の期間を超えてもなお修学できない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者
- (5) 死亡した者

第7章 専攻の変更

(変更)

第32条 博士課程の専攻の変更は、原則として認めない。ただし、特別の事情ある場合は、学長は、研究科委員会の議を経て、専攻の変更を許可することができる。

第33条 専攻を変更した後の在学すべき年限及び既修得単位の認定等については、当該学生の履修状況等を勘案して、研究科委員会において決定する。

2 前項により修業年限を変更された場合であっても、第6条に定める博士課程の在学年限を超えることができない。

第8章 表彰及び懲戒

(表彰)

第34条 学長は、学業及び操行が優秀で他の学生の模範となる学生を、研究科委員会の議を経て、表彰することができる。

(懲戒)

第35条 学長は、学生が大学院学則その他の規程に違反し、若しくは秩序を乱し、又は学生の本分に反する行為があったときは、研究科委員会の議を経て、当該学生を懲戒することができる。

2 懲戒は、情状により戒告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由なくして出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 停学の期間は、在学年限に算入し、修業年限には算入しないものとする。ただし、停学期間が3か月未満の場合は、修業年限に算入することができる。

第9章 研究生、専攻生、聴講生、委託生及び外国人留学生

(研究生及び専攻生)

第36条 本大学院において、特定の課題について研究することを志願する者がいるときは、大学院の教育研究に支障のない限り、選考のうえ、研究生及び専攻生として入学を許可することができる。

2 研究生及び専攻生を志願することのできる者は、大学(6年制の医学、歯学、獣医学又は薬学の課程)卒業した者、又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 その他、研究生及び専攻生に関して必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第37条 特定の授業科目の聴講を願い出る者があるときは、教育に支障がない限り、聴講生として入学を許可することができる。

2 その他、聴講生に関して必要な事項は、別に定める。

(委託生)

第38条 官庁又は公共団体等から1学期以上を在学期間とし、学修する授業科目を指定して教育の委託の願い出のあるときは、選考のうえ、委託生として入学を許可することができる。

2 その他、委託生に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第39条 外国人で、大学において教育を受ける目的で入国し、本大学院に入学を志願する者がいるときは、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可する。

2 その他、外国人留学生に関して必要な事項は、別に定める。

第10章 入学考査料及び学生納付金

(入学考査料及び学生納付金)

第40条 入学考査料及び学生納付金の額は、別表3のとおりとする。

2 学生納付金は、次の前期の所定の期日までに全納するか、又は次の2期の所定の期日までに等分して納入しなければならない。ただし、特別の事情がある場合には、期限を定めて納入の延期を認めることがある。

前期 4月30日まで

後期 10月31日まで

3 停学の懲戒を受けた者に係る学生納付金は、停学期間中であってもこれを徴収する。

4 休学を許可された者に係る学生納付金は、事情により減免することができる。

5 前項の減免に当たっては、研究科委員会の議を経て、学長が決定する。

6 学年の中途において退学し、転学し、又は退学を命ぜられた者であっても、当該年度の学生納付金を納めなければならない。

7 学生納付金の滞納者は、納入後でなければ単位認定のための試験を受けることができない。

(免除等)

第41条 学業優秀である者又は経済的理由によって納付が困難な者に対しては、学生納付金の一部又は

全部を免除することがある。

2 再入学者の入学金は、免除することがある。

(研究生、専攻生、聴講生及び委託生の入学考査料及び学生納付金)

第42条 研究生、専攻生、聴講生及び委託生の入学考査料及び学生納付金の額は、別表4のとおりとする。

(授業料等の返還)

第43条 納付した入学考査料及び学生納付金は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学辞退を届け出た者については、入学金又はこれに相当する金額を除き授業料等を返還することがある

(奨学生)

第44条 品行方正で学力優秀な学生で、他の学生の模範となると認められた学生を奨学生とすることがある。

2 奨学生に対しては、授業料の額の一部を給付するものとする。

第11章 職員組織

(研究科長、専攻主任、教育職員等)

第45条 本大学院の医学研究科に、研究科長を置く。

2 研究科長は、研究科を統括する。

3 研究科長は、学長がこれを兼ねることができる。

第46条 医学研究科の各専攻に、専攻主任を置く。

2 専攻主任は、当該専攻を統括する。

第47条 本大学院における授業及び研究指導は、主任教授が行う。ただし、特別な事情がある場合には、教授、臨床教授、准教授、臨床准教授、講師、臨床講師若しくは助教又は学外から招聘する講師に担当させることがある。

(事務職員)

第48条 本大学院の事務を処理するため、事務職員若干名を置く。

第12章 運営組織

(研究科委員会)

第49条 研究科に、研究科委員会を置く。

2 研究科委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 大学院学則その他大学院に係る規程等の制定、改廃に関する事項
- (2) 大学院の組織の設置及び改廃に関する事項
- (3) 入学、転学、退学、休学及び留学等学生の身分に関する事項
- (4) 課程の修了及び学位の授与に関する事項
- (5) 入学試験に関する事項
- (6) 学生の試験及び評価に関する事項
- (7) 教育課程の編成に関する事項
- (8) 学生の表彰及び懲戒に関する事項
- (9) 学生の厚生補導に関する事項

- (10) 大学院に係る教育職員の任免に関する事項
- (11) 学生納付金の減免に関する事項
- (12) その他、大学院の教育・研究に関する学長の諮問事項

3 その他、研究科委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。
(委員会)

第50条 研究科委員会は、必要に応じて委員会を設けることができる。

2 研究科委員会に置く委員会に関する事項は、別に定める。

第13章 研究指導施設

第51条 本大学院に、学生研究室及び実験実習室を置く。

2 学部及び附属施設の施設は、必要に応じ大学院の学生の研究及び指導のために用いる。

第14章 補 則

第52条 この学則に定めるもののほか、この学則の実施のために必要な規程等は、別に定める。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この学則の施行に伴い、昭和32年4月1日制定の「東京医科大学大学院学則」は、廃止する。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成24年4月1日以前に入学した者の学科目及び単位は、なお従前の例による。
- 4 平成25年度の医科学専攻（修士課程）の収容定員は、第4条の規定にかかわらず、10名とする。

別表1

教育課程表								
医学研究科医科学専攻(修士課程)								
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験 実習
専 門 科 目	医学特論Ⅰ（総論）	1前	1			○		
	医学特論Ⅱ（生命倫理）	1前	1			○		
	医学特論Ⅲ（医学英語）	1前	1			○		
	医学特論Ⅳ（医科学一般）	1前	1			○		
	基礎生命科学特論	1前	2			○		
	分子細胞生物学特論	1前	2			○		
	分子病態学特論	1前	2			○		
	生体機能医学特論Ⅰ（分子生理学）	1前	2			○		
	生体機能医学特論Ⅱ（分子病理学）	1前	2			○		
	生体機能医学特論Ⅲ（神経解剖学）	1後	2			○		
	生体機能医学特論Ⅳ（分子薬理学）	1前	2			○		
	生体機能医学特論Ⅴ（感染症学）	1前	2			○		
	生体機能医学特論Ⅵ（分子免疫学）	1前	2			○		
	公衆衛生学特論	1後	2			○		
	生体病態医学特論Ⅰ （リウマチ膠原病・神経内科学）	1後		1		○		
	生体病態医学特論Ⅱ （生体侵襲制御学）	1後		1		○		
	生体病態医学特論Ⅲ （循環器病学）	1後		2		○		
	生体病態医学特論Ⅳ （呼吸器・甲状腺学）	1後		2		○		
	医療安全管理学特論	2前		2		○		
	医学教育学特論	1後		2		○		
医科学特別研究	1～2	4				○		
合計		—	28	10	0	—		
修了要件及び履修方法								
30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。								

別表2

教育課程表									
(医学研究科博士課程)									
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			備考	
			必修	選択	講義	演習	実験 実習		
基礎科目	共通基礎特講	1	1		○			基礎系のみ	
	共通基礎特実	1		1			○		
	小計 (2科目)	—	1	1	—				
共通科目 I	医学英語コミュニケーション	1～3	0.5		○			医学会総会出席	
	先端医科学特講	1～3	0.5		○				
	特別必修 I	1～3	1			○			
	医療統計学特講	1～3		2	○				
	医学研究における法と倫理特講	1～3		1	○				
	特別選択 I	1～3		2		○			内外の研究会、学位公開審査会出席、 学外学会出席等
	小計 (6科目)	—	2	5	—				
形態系専攻	人体構造学	1～3	5		○				
	組織・神経解剖学	1～3	13				○		
	人体病理学	1～3	5		○				
	分子病理学	1～3	5		○				
	微生物学	1～3	13				○		
	細胞生理学	1～3	5		○				
	神経生理学	1～3	5		○				
	生化学	1～3	5		○				
	薬理学	1～3	5		○				
	免疫学	1～3	5		○				
	公衆衛生学	1～3	5		○				
	健康増進スポーツ医学	1～3	5		○				
社会医学系専攻	法医学	1～3	5		○				
	医療の質・安全管理学	1～3	5		○				
	医学教育学	1～3	5		○				
	血液・呼吸器内科学	1～3	5		○				
	循環器内科学	1～3	13	1			○		
	糖尿病・代謝・内分泌・膠原病 ・アレルギー・神経内科学	1～3	5		○				
専門科目	消化器内科学	1～3	13	1			○		
	呼吸器内科学・代謝内科学	1～3	5		○				
	精神医学	1～3	13	1			○		
	小児科学	1～3	5		○				
	皮膚科学	1～3	13	1			○		
	放射線医学	1～3	5		○				
	臨床検査医学	1～3	13	1			○		
	臨検検査医学	1～3	5		○				
	臨床検査医学	1～3	13	1			○		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			備考
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	
外科系専攻	加齢医学	1～3	5		○			専門科目は1科目18単位以上取得
		1～3	13	1			○	
	呼吸器・甲状腺外科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	心臓・血管外科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	消化器外科学・小児外科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	消化器外科学・一般外科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	消化器外科学・移植外科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	整形外科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	眼科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	泌尿器科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
産科婦人科学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		
麻酔科学・生体侵襲制御学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		
脳神経外科学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		
口腔外科学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		
形成外科学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		
緊急・災害医学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		
社会人大学院・臨床研究系	血液・呼吸器内科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	循環器内科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	糖尿病・代謝・内分泌・膠原病 ・アレルギー・神経内科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	消化器内科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	呼吸器内科学・代謝内科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	精神医学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	小児科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	皮膚科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	放射線医学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	臨床検査医学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
加齢医学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		
呼吸器・甲状腺外科学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		
心臓・血管外科学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		
消化器外科学・小児外科学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		
消化器外科学・一般外科学	1～3	5		○				
	1～3	13	1			○		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			備考	
			必修	選択	講義	演習	実験 実習		
専門科目	消化器外科学・移植外科学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	整形外科学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	眼科学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	泌尿器科学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	産科婦人科学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	麻酔科学・生体侵襲制御学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	脳神経外科学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	口腔外科学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	形成外科学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	緊急・災害医学	1～3	5		○				
		1～3	13	1			○		
	社会人大学院・研究系	人体構造学	1～3	5		○			
			1～3	13				○	
		組織・神経解剖学	1～3	5		○			
			1～3	13				○	
		人体病理学	1～3	5		○			
		1～3	13				○		
分子病理学		1～3	5		○				
		1～3	13				○		
微生物学		1～3	5		○				
		1～3	13				○		
細胞生理学		1～3	5		○				
		1～3	13				○		
神経生理学		1～3	5		○				
		1～3	13				○		
生化学		1～3	5		○				
		1～3	13				○		
薬理学		1～3	5		○				
		1～3	13				○		
免疫学		1～3	5		○				
		1～3	13				○		
公衆衛生学	1～3	5		○					
	1～3	13				○			
健康増進スポーツ医学	1～3	5		○					
	1～3	13				○			
法医学	1～3	5		○					
	1～3	13				○			
医療の質・安全管理学	1～3	5		○					
	1～3	13				○			
医学教育学	1～3	5		○					
	1～3	13				○			
	小計（1科目）	—	18	1	—				
共通科目Ⅱ	特別必修Ⅱ	1～3	1			○		学外学会発表:筆頭演者	
	特別必修Ⅲ	3～4	1			○		医学会総会発表	
	特別選択Ⅱ	1～3		0.5		○		邦文論文発表(共著者:2論文以上)	
	特別選択Ⅲ	1～3		0.5		○		英文論文発表(共著者:1論文以上)	
	特別選択Ⅳ	1～3		1		○		学外学会発表:共同演者	
	学位論文作成	1～3	3			○			
	小計（6科目）	—	5	2	—				
	合計（15科目）	—	26	9以上	—				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			備考
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	
修了要件及び履修方法								
基礎科目から1単位以上、共通科目Ⅰから4単位以上、専門科目18単位以上、共通科目Ⅱから6単位以上を修得し、計30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。								
備 考								
○次世代型がん低侵襲治療専門医コース及び総合臨床腫瘍医育成コースについては、別に定める。								

別表3 医学研究科入学考査料及び学生納付金（第40条関係）

課程	専攻名	学年	入学考査料	学生納付金		計
				入学金	授業料	
修士課程	医科学専攻	—	10,000円	—	—	—
		1年次	—	100,000円	400,000円	500,000円
		2年次	—	—	400,000円	400,000円
博士課程	形態系専攻、機能系専攻、 社会医学系専攻、内科系専攻、 外科系専攻、 社会人大学院・臨床研究系専攻、 社会人大学院・研究系専攻	—	10,000円	—	—	—
		1年次	—	100,000円	400,000円	500,000円
		2年次	—	—	400,000円	400,000円
		3年次	—	—	400,000円	400,000円
		4年次	—	—	400,000円	400,000円

別表4 大学院の研究生、専攻生、聴講生及び委託生に係る入学考査料及び学生納付金（第42条関係）

区分	入学考査料	学生納付金	
		入学金	授業料
研究 専攻 生	20,000円	150,000円	年額300,000円
聴 講 生	10,000円	100,000円	月額 20,000円
委 託 生	10,000円	100,000円	月額 20,000円

備考1：本学を卒業した者の研究生及び専攻生の入学金は、100,000円とする。

備考2：上記の学生納付金のほか、実習費として別途徴収することがある。

教育方法、研究指導の方法及び修了要件

1. 修了要件

本専攻の修了要件は、必修科目を含めて30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、
たうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

2. 研究指導の方法と修了までのスケジュール

1) 研究指導の方法と修了までのスケジュール

研究指導は、以下のようなステップを踏んで進めます。

①入学希望者は、指導を希望する教員と面接し、研究内容等に関する事前相談を行い、了解を得ることとします。



②入学後、直ちに研究指導教員が決定されます。



③学生は、必修科目24単位の履修を開始すると同時に、研究指導担当教員の指導の下で、1年次前期には具体的な研究計画を作成して予備的研究を開始します。
1年次の9月から本格的な研究に着手し、研究内容によっては、本学の医学倫理委員会へ申請を行い、承認を得ることとします。



④2年次の前期終了時点までに研究における一定の成果を挙げることを目指しますが、研究の遂行にあたっては、研究指導担当教員による指導だけでなく、研究室各グループの報告会に参加して、研究指導担当教員以外のスタッフや大学院（博士課程）学生などから助言を受けます。



⑤2年次の11月医学会総会で研究発表を行います。その後、1月第一水曜日までに、修士論文を提出し、1月の研究科委員会で学位論文審査委員（主査、副査）が決定され、学位論文審査委員会で審査し、2月の研究科委員会の最終審査を経て、合否が決定されます。

学位の質を担保するために、提出された修士論文の研究内容には、「少なくとも将来学術論文として学術雑誌に掲載されうる内容を含むこと」を学位研究指導の指針とします。

医学特別研究予定表		
1年次	4月 9月	入学、研究室配属、研究テーマ決定予備的な研究開始 本格的な研究開始
2年次	4月 11月 1月 2月	進級 東京医科大学医学会総会で研究発表 学位論文提出 学位論文審査（1次審査） 学位論文審査（2次審査）修了

加入保険等

○加入保険

学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険（入学時に加入しています。）

1. 学生教育研究災害傷害保険普通保険

○学生教育研究災害傷害保険は、学生が教育研究活動中に被った災害に対して 必要な給付を行い、大学の教育研究活動の充実・発展に寄与することを趣旨として、昭和 51 年度から始められた災害補償制度です。

※詳細は以下の URL を参照してください。 <http://www.jees.or.jp/gakkensai/index.htm>

2. 学研災付帯賠償責任保険

○学生教育研究災害傷害保険加入者は、学研災付帯賠償責任保険に加入することができます。この賠償責任保険は、国内外において、学生が正課、学校行事およびその往復中で、他人にケガを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償します。

※詳細は以下の URL を参照してください。 <http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-baisho.htm>

※上記の事故等が発生した場合は医学科学務課大学院係に連絡してください。

○アルバイト

アルバイト等は就学に支障のないように注意してください。

○学生メンタルサポート

<相談窓口>

副学長（医学科長） 飯森眞喜雄（いもりまきお）精神医学教室主任教授
予約連絡先：大学病院メンタルヘルス科医局 03-3342-6111（内 5752～5754）
メールアドレス：iimori@tokyo-med.ac.jp

○学生部

<相談窓口>

学生部長 後藤 浩（眼科学主任教授）連絡先：03-3342-6111（内 5876）

○ 大学院医学研究科 WEB 掲示板

<http://www.tokyo-med.ac.jp/faculty/graduate/>

○ 各種奨学金

- ・日本学生支援機構奨学金（4月中旬頃）
- ・東京医科大学大学院奨学生（11月中旬頃）
- ・その他の奨学金（募集があり次第）

※大学院医学研究科 WEB 掲示板に掲出しますので確認してください。

※ 問合せ先

〒160-8402 東京都新宿区新宿 6-1-1
東京医科大学医学科学務課大学院係
03-3351-6141（代）内線 228
d-gakumu@tokyo-med.ac.jp

平成25年度医科学専攻(修士課程)授業時間割表

○1年前期 全て必修 ()単位数 (1)は8回 (2)は15回実施

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限 9:00~10:30	医学特論Ⅰ (総論)(1)	生体機能 医学特論Ⅴ 感染症学(2)	生体機能 医学特論Ⅵ 分子免疫学(2)	生体機能 医学特論Ⅳ 分子薬理学(2)	
2時限 10:40~12:10	医学特論Ⅳ (医科学一般)(1) 五月より開講	生体機能 医学特論Ⅰ 分子生理学(2)	生体機能 医学特論Ⅱ 分子病理学(2)	医学特論Ⅱ (生命倫理)(1)	
3時限 13:10~14:40		分子細胞 生物学特論(2)	※	基礎生命 科学特論(2)	
4時限 14:50~16:20	医学特論Ⅲ 医学英語(1)	基礎生命 科学特論(2)	※	分子病態学 特論(2)	
5時限 16:30~18:00					

※医学科課題研究のため研究室の使用ができません。

○1年後期 黒字必修 赤字2単位以上選択

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限 9:00~10:30				公衆衛生学 特論(2)	
2時限 10:40~12:10				生体機能 医学特論Ⅲ (神経解剖学)(2)	生体病態 医学特論Ⅱ 生体侵襲制御 学(1)
3時限 13:10~14:40					
4時限 14:50~16:20					
5時限 16:30~18:00		生体病態 医学特論Ⅳ (呼吸器・甲状腺 学)(2)	生体病態 医学特論Ⅰ (リウマチ膠原病 ・神経内科学) (後半4コマ)(1)	生体病態 医学特論Ⅰ (リウマチ膠原病 ・神経内科学) (前半4コマ)(1)	医学教育学 特論(2)
		生体病態 医学特論Ⅲ (循環器病学)(2)			

医学特論 I (総論)

【 責任者:〔薬理学〕 松岡 正明 主任教授 】

授業科目担当教員

〔生化学〕	宮澤 啓介 主任教授
〔微生物学〕	松本 哲哉 主任教授
〔分子病理学〕	黒田 雅彦 主任教授
〔神経生理学〕	八谷 如美 教授
〔医学総合研究所〕	善本 隆之 教授

種別:必修科目

学期:1年前期

単位数:1単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

歴史を踏まえつつ医科学の最先端の現状について理解し、医科学研究の今後の進むべき姿について自らの考えを述べるができる。医科学研究の基礎概念を説明できる。

(2) 授業の概要

・幾つかの注目分野に焦点を絞って、医科学研究の実際を紹介する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

特になし

(3) その他

3. 学生への評価方法

・授業への出席、受講態度、記述試験、口頭試問、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

無し

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	4 月 8 日(月)	1	ガイダンス 動物実験による医学への貢献—動物実験の 進歩と発展を概説し医科学研究における動物 実験の意義を主に疾患の動物モデルを通じて 示す	松岡正明
2	4 月 15 日(月)	1	トランスレーショナルリサーチ研究の概念を理 解させ、同研究の例を悪性腫瘍研究の分野で の業績を紹介し今後の展望をしめす	宮澤啓介
3	4 月 22 日(月)	1	医科学研究の基本的知識—臨床観察からベ ンチサイド研究まで医学研究の現状に解説 する	水口純一郎
4	5 月 13 日(月)	1	新たな病原体の出現—近年新たに発生した、 エイズ、SARS、インフルエンザなどについて病 原体研究の医学における意義を理解させる	松本哲哉
5	5 月 20 日(月)	1	iPS 細胞—再生医療の最先端として iPS 細胞 研究を紹介し、その最先端研究の現状を通じ て、医科学研究のあり方を理解させる	黒田雅彦
6	5 月 27 日(月)	1	食の安全と疾患—狂牛病を取り上げプリオン 研究の現状をしめす	八谷如美
7	6 月 3 日(月)	1	病理診断学の進歩—病理診断学の進歩を概 観し、それが医学の発展にもたらした効果を病 理研究の観点から理解させる	黒田雅彦
8	6 月 10 日(月)	1	免疫学の進歩—免疫学の進歩と免疫学的疾 患治療法の進歩の解説	善本隆之

医学特論Ⅱ(生命倫理)

【 責任者:生命倫理学(医学倫理学) 黒須 三恵 准教授 】

授業科目担当教員

〔分子病理学〕 黒田 雅彦 主任教授

種別:必修科目

学期:1年前期

単位数:1単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

医療・医科学に関連した基本的な倫理問題についてその現状を理解し、多様な考え方に配慮しながら、新たな課題に対応できる判断力を身につける。

(2) 授業の概要

- ・医学や生命科学における倫理上の問題点を概説する。
医科学研究において遭遇する問題は比較的少数であり、主に臨床医学上の問題が中心的なテーマとなる。しかしながら、先端的な医科学研究は、直接のおよび間接的に臨床医学の問題と関連する場合が多いため、基本的な概念形成が必須となる。
- ・討論を通じて思考能力を養う。
- ・資料は授業ごとに配布する。
- ・与えられたテーマについて予め、自分の考えを形成しておくことが必須である。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

- ・事前に授業の予習を行い、課題となる事項について自分なりの考えをまとめておく。

(2) 他の授業科目との関連性

- ・医学や生命科学における倫理上の問題を考えるためには、医学や生命科学上の知識を理解していなければ、誤った判断をすることが懸念される。そのため、医学特論や生体機能医学特論なども真剣に学ばなければならない。

(3) その他

- ・討論には積極的に参加すること。

3. 学生への評価方法

- ・授業への出席、受講態度、討論態度、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

- ・参考書:『新版 医療倫理 Q&A』関東医学哲学・倫理学会編、太陽出版、2013年

6. 授業内容・日程

回	月日	時限	内容	担当者
1	4月18日(木)	2	生命倫理学の成立とその背景	黒須
2	4月25日(木)	2	生命倫理の理論と実践—生死における倫理問題	黒須
3	5月2日(木)	2	生命倫理と先端医療—クローン技術	黒田
4	5月9日(木)	2	生命倫理と医学研究—動物実験や遺伝子診断など	黒須
5	5月16日(木)	2	終末期医療の倫理的問題	黒須
6	5月23日(木)	2	臓器移植および脳死の倫理的問題	黒須
7	5月30日(木)	2	全体総括(総合討論)	黒須
8	6月6日(木)	2	全体総括(総合討論)	黒須

医学特論Ⅲ(医学英語)

【 責任者:〔医学教育学〕 R.ブルーヘルマンズ 准教授 】

授業科目担当教員

〔微生物学〕	小林 了 准教授
〔神経生理学〕	八谷 如美 教授
〔薬理学〕	松岡 正明 主任教授
〔微生物学〕	松本 哲哉 主任教授

種別:必修科目

学期:1年前期

単位数:1単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

医療・医科学に関連した医学英語の基本を習得する。また、今後さらなる医学英語の習得を行うノウハウを身につける。医学英語論文の読解と執筆の基本を習得する。

(2) 授業の概要

医学研究には英語の習得が必須であることを理解した上で、医学英語に関する基本を学ぶ。感染症、生理学、薬理学の3分野を例に、医学英語論文の読解演習を行う。英語論文の執筆法の講義と演習を行う。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

- ・積極的に参加する態度が重要である。
- ・読解演習ではあらかじめ渡された例を予習しておくことが必須である。
- ・執筆法のセクションでは与えられた宿題を必ず行っておく。

(2) 他の授業科目との関連性

特になし

(3) その他

特になし

3. 学生への評価方法

授業への出席、受講態度、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

資料は授業ごとに担当教員がハンドアウトを配布する。

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	4月8日(月)	4	医学英語の必要性ー入門、 医学英語の特徴	R.ブルーヘルマンス
2	4月15日(月)	4	医学専門用語の修得(1) 基本医学用語	R.ブルーヘルマンス
3	4月22日(月)	4	医学専門用語の修得(2) 基本医学的な言い回し	R.ブルーヘルマンス
4	5月13日(月)	4	医学英語論文の読解演習(1) 感染症分野	小林 了
5	5月20日(月)	4	医学英語論文の読解演習(2) 生理学分野	八谷 如美
6	5月27日(月)	4	医学英語論文の読解演習(3) 薬理学分野	松岡 正明
7	6月3日(月)	4	英語論文の執筆法(1) 基本骨格の説明および演習	松本 哲哉
8	6月10日(月)	4	英語論文の執筆法(2) 演習	松本 哲哉

医学特論Ⅳ(医科学一般)

【 責任者：〔化学〕 荒井 貞夫 教授 】

授業科目担当教員

〔生物学〕 太田 一正 講師

〔数学〕 神田 茂雄 准教授

種別:必修科目

学期:1年前期

単位数:1単位

1. 授業の目標・概要

(1)授業の目標

医学研究遂行の基礎となる化学や生物学の概念、ならびに統計の基本を理解することを目標とする。

(2)授業の概要

生体構成分子の分子構造とそれらの反応について化学の立場から考える。つぎに、生命システムのもつ普遍的な細胞の分子基盤とそこから生み出される多様性を階層的にとらえ、生物としてのヒトを考える。さらに、医学統計の考え方の基礎について学ぶ。

2. 授業に際し学生の留意点

(1)授業への準備・予習

(2)他の授業科目との関連性

(3)その他

3. 学生への評価方法

授業への出席、受講態度、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

古川俊之 監修, 丹後俊郎 著:『医学への統計学』, 朝倉書店

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	5 月 13 日(月)	2	医学研究の基礎としての化学(1)生体構成分子の構造	荒井貞夫
2	5 月 20 日(月)	2	医学研究の基礎としての化学(2)生体構成分子の反応	荒井貞夫
3	5 月 27 日(月)	2	医学研究の基礎としての生物学(1)－生物の特性	太田一正
4	6 月 3 日(月)	2	医学研究の基礎としての生物学(2)－生物としてのヒト	太田一正
5	6 月 10 日(月)	2	医学データの整理	神田茂雄
6	6 月 17 日(月)	2	統計的推測の基礎	神田茂雄
7	6 月 24 日(月)	2	平均値に関する推測	神田茂雄
8	7 月 1 日(月)	2	相関係数と回帰直線に関する推測	神田茂雄

基礎生命科学特論

【 責任者：〔生物〕 太田 一正 講師 】

種別：必修科目

学期：1年前期

単位数：2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

進化という概念を通して、細胞の誕生から多細胞生物への道のりを理解し、この普遍的原理としての遺伝情報とそこから生じた多様性を理解する。また、生命医科学を学ぶための基礎となる生命現象の共通の原理や仕組みを習得するとともに、科学的に理解する態度を身につける。

(2) 授業の概要

地球上に生物が誕生してきた歴史を、生命現象の普遍性と多様性の両面から考え、ヒトがどのように進化してきたのかを概説する。これらの中で必要に応じ、生命医科学を学ぶための基礎となる細胞と細胞小器官、生体構成分子、細胞の増殖、細胞の情報伝達などについても解説する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

授業内容に応じて必要な基本知識や疑問点を確認しておく。

(2) 他の授業科目との関連性

生命現象の普遍性と多様性を通して全ての科目と関連する。

(3) その他

特になし

3. 学生への評価方法

出席状況とレポート

4. 教科書・参考書など

参考書

- ・進化 分子・個体・生態系 宮田隆・星山大介監訳 MEDSi
- ・ウォールパート発生生物学 武田洋幸・田村宏治監訳 MEDSi
- ・生態進化発生学 正木進三・竹田真木生・田中誠二訳 東海大学出版会
- ・ヒトの分子遺伝学第4版 村松正實・木南凌監修 MWDSi
- ・ワトソン遺伝子の分子生物学第6版 中村桂子監訳 東京電機大学出版局
- ・キャンベル生物学原書9版 小林興監訳 丸善出版

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	4 月 9 日(火)	4	生物の共通祖先	太田
2	4 月 16 日(火)	4	真核生物の起源と多様化	太田
3	4 月 23 日(火)	4	多細胞性と発生	太田
4	4 月 30 日(火)	4	ショウジョウバエのボディプラン	太田
5	5 月 7 日(火)	4	脊椎動物の発生—体軸と胚葉、体節のパターン形成	太田
6	5 月 14 日(火)	4	発生プログラムの進化	太田
7	5 月 21 日(火)	4	ヒトゲノムの構成	太田
8	5 月 28 日(火)	4	遺伝子の構成・分布・機能	太田
9	6 月 4 日(火)	4	非コードDNA	太田
10	6 月 11 日(火)	4	突然変異、DNA の損傷と修復	太田
11	6 月 18 日(火)	4	反復配列間の配列交換	太田
12	6 月 25 日(火)	4	疾患を引き起こす変異	太田
13	7 月 2 日(火)	4	遺伝子構造と重複遺伝子の進化	太田
14	7 月 9 日(火)	4	染色体とゲノムの進化	太田
15	7 月 16 日(火)	4	ヒト族の進化	太田

分子細胞生物学特論

【責任者：〔生化学〕 宮澤 啓介 主任教授】

授業科目担当教員

〔生化学〕 山根 基輝 准教授

種別:必修科目

学期:1年前期

単位数:2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

生化学・分子生物学は生命現象を分子あるいは原子のレベルで探求していく学問領域であり、医学における様々な病態を理解する上で不可欠な基礎科目の一つである。生体は合成(同化)と分解(異化)の動的バランスにより維持されているが、個体を構成する個々の細胞レベルに視点を移せば、①細胞増殖(DNA複製)、②分化(遺伝子発現)、③アポトーシス、あるいは④静止期(G0期)の維持という4つの現象の何れかが営まれており、これらは巧妙な制御機構のもとにある。また、このような細胞現象の制御破綻が悪性腫瘍を含めた様々な疾患を誘発する。

本講座では、生化学・分子生物学の学習を通して、生命現象の制御を分子レベルで理解する“目を養う”ことを到達目標としている。

(2) 授業の概要

まず、生化学の概論により細胞の構成要素を理解し、分子生物学の視点から細胞増殖(DNA複製)、分化(遺伝子発現)の制御を理解し、細胞内構成成分の除去機構(オートファジー、ユビキチン・プロテアソーム)、個々の細胞排除機構(アポトーシス)へと展開される。また、この過程で諸疾患の病態生理を理解する関連事項および研究活動を行う上での基礎的研究技能に関する項目も適宜解説する。

2. 授業に際し学生の留意点

少人数による双方向授業を展開する。授業中のディスカッションには積極的に参加すること。

3. 学生への評価方法

授業中におけるディスカッションへの参加度、口頭試問、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

「分子生物学概論」(東京医科大学生化学講座編)を配布する。その他資料は各授業に担当教員が配布する。

参考書として

「Essential 細胞生物学」南江堂

「ストライヤー生化学」東京化学同人

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	4 月 9 日(火)	3	オリエンテーションー生化学と分子生物学の関連	宮澤
2	4 月 16 日(火)	3	生化学の基礎(1)ーアミノ酸・タンパク	山根
3	4 月 23 日(火)	3	生化学の基礎(2)ー酵素学	山根
4	4 月 30 日(火)	3	生化学の基礎(3)ー糖代謝	山根
5	5 月 7 日(火)	3	生化学の基礎(4)ー脂質代謝	山根
6	5 月 14 日(火)	3	生化学の基礎(5)ーホルモン	山根
7	5 月 21 日(火)	3	生化学の応用(1)ー生化学的手技	山根
8	5 月 28 日(火)	3	生化学の応用(2)ータンパク質科学の研究	山根
9	6 月 4 日(火)	3	分子生物学の基礎(1)ー遺伝子と染色体	宮澤
10	6 月 11 日(火)	3	分子生物学の基礎(2)ープロモーターとエンハンサー	宮澤
11	6 月 18 日(火)	3	細胞内情報伝達(1)ー増殖因子の細胞内情報	宮澤
12	6 月 25 日(火)	3	細胞内情報伝達(2)ー細胞内情報伝達と悪性腫瘍	宮澤
13	7 月 2 日(火)	3	分子生物学の応用ー遺伝子導入・組み換え技術	宮澤
14	7 月 9 日(火)	3	細胞内タンパク分解機構(ユビキチン・プロテアソームとオートファジー)	宮澤
15	7 月 16 日(火)	3	アポトーシスの生化学	宮澤

分子病態学特論

【責任者：〔医学総合研究所〕 大屋敷 純子 教授】

授業科目担当教員

〔医学総合研究所〕 善本 隆之 教授

〔医学総合研究所〕 中島 利博 教授

〔医学総合研究所〕 稲津 正人 准教授

種別:必修科目

学期:1年前期

単位数:2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

生命医科学の基礎である遺伝学の正確な知識に基づき、疾患の成因を遺伝子やタンパク質などの分子レベルの異常としてとらえ、その最新診断法および治療法を理解することを目標とする。

(2) 授業の概要

臨床遺伝学の基礎と応用について、メンデル遺伝病、多因子遺伝病、および遺伝子診断と遺伝子・細胞治療について概説する。また、悪性腫瘍、免疫不全症、感染症、自己免疫疾患、炎症性疾患、関節リウマチ、脂質代謝異常、糖尿病などの疾患について、その分子基盤および分子標的療法の歴史などを概説する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

各授業の担当教員の指示があった場合を除いて、原則として予習は不要である。

(2) 他の授業科目との関連性

基礎医学と臨床医学の橋渡し研究に必要な知識であり、分野横断的な領域の講義である。

(3) その他

3. 学生への評価方法

授業への出席、受講態度、記述試験、口頭試問、レポートなどにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

各授業の担当教員がハンドアウトを配布する。

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	4 月 11 日(木)	4	遺伝子病の分子基盤	大屋敷
2	4 月 18 日(木)	4	遺伝子と疾患:メンデル遺伝	大屋敷
3	4 月 25 日(木)	4	遺伝子と疾患:多因子遺伝	大屋敷
4	5 月 2 日(木)	4	遺伝子診断と遺伝子・細胞治療	大屋敷
5	5 月 9 日(木)	4	関節リウマチを例とした炎症性疾患の分子病態1	中島
6	5 月 16 日(木)	4	がん分子病態の最新研究	大屋敷
7	5 月 23 日(木)	4	腫瘍に対する生体防御機構	善本
8	5 月 30 日(木)	4	感染症とその分子機序	善本
9	6 月 6 日(木)	4	アレルギー性疾患とその分子機序	善本
10	6 月 13 日(木)	4	関節リウマチを例とした炎症性疾患の分子病態2	中島
11	6 月 20 日(木)	4	自己免疫性疾患とその分子機序	善本
12	6 月 27 日(木)	4	脂質代謝異常の分子病態	稲津
13	7 月 4 日(木)	4	免疫不全症候群とその分子機序	善本
14	7 月 11 日(木)	4	分子標的治療開発の歴史	中島
15	7 月 18 日(木)	4	糖尿病の分子病態と薬剤	稲津

生体機能医学特論 I (分子生理学)

【 責任者:〔神経生理学〕 八谷 如美 教授 】

授業科目担当教員

〔神経生理学〕 佐々木 光美 准教授

種別:必修科目

学期:1年前期

単位数:2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

蛋白質化学の視点からプリオン病など神経変性疾患を伴う蛋白質凝集病の病態を理解することを目標とする。また、参加型の授業を通してプレゼンテーションスキルを向上させることも併せて目標とする。

(2) 授業の概要

神経をはじめ生体内のさまざまな細胞の特性および生理機能と構造を、授業内容の項目に沿って、指定した教科書を利用しながら理解する。さらに、関連する文献を自ら検索し内容を理解した上で、各自がプレゼンテーションを行う参加型の授業を行う。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

あらかじめ指定された教科書の項目および関連文献を予習しておく。

(2) 他の授業科目との関連性

分子生理学の授業内容は他の授業科目とも相互に補いあうものである。各自が授業で得た知識を有機的に統合し理解することが大切である。

(3) その他

3. 学生への評価方法

授業への出席、受講態度、口頭試問、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

MOLECULAR CELL BIOLOGY (Six edition)

W.H. Freeman and Company 41 Madison Avenue New York, NY 10010

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	4 月 9 日(火)	2	細胞の構造と機能	八谷
2	4 月 16 日(火)	2	オルガネラの構造・機能・関連疾患(1)	八谷
3	4 月 23 日(火)	2	オルガネラの構造・機能・関連疾患(2)	佐々木
4	4 月 30 日(火)	2	細胞内のシグナル伝達と関連疾患	八谷
5	5 月 7 日(火)	2	脂質代謝異常と関連疾患	八谷
6	5 月 14 日(火)	2	遺伝子発現異常と関連疾患(1)	八谷
7	5 月 21 日(火)	2	遺伝子発現異常と関連疾患(2)	八谷
8	5 月 28 日(火)	2	蛋白質構造形成異常と関連疾患(1)	八谷
9	6 月 4 日(火)	2	蛋白質構造形成異常と関連疾患(2)	八谷
10	6 月 11 日(火)	2	神経変性疾患の細胞生物学	八谷
11	6 月 18 日(火)	2	プリオン病の基礎医学(1)	八谷
12	6 月 25 日(火)	2	プリオン病の基礎医学(2)	八谷
13	7 月 2 日(火)	2	プリオン病の臨床	八谷
14	7 月 9 日(火)	2	アミロイド形成の蛋白質化学	八谷
15	7 月 16 日(火)	2	アミロイドーシスの伝播とリスク	八谷

生体機能医学特論Ⅱ(分子病理学)

【責任者：〔分子病理学〕 黒田 雅彦 主任教授】

授業科目担当教員

〔分子病理学〕 倉田 厚 講師

種別:必修科目

学期:1年前期

単位数:2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- a. 臨床医学研究に必要な基本的病変および主要疾患の原因、発生機序について、形態学的立場から理解する。
- b. 疾患の研究に必要な病理学的方法論(病理解剖学、外科病理学、臨床細胞学、分子生物学など)を理解する。

(2) 授業の概要

分子診断のための細胞生物学、分子生物学的な手法を習得すると同時に疾患の原因となる、分子メカニズムを理解する。また、より精度の高い分子診断の手法や標的分子について研究する。(黒田雅彦/10 回)分子病理学総論や分子病理学的解析法や分子診断法を担当する。また、最先端の病理学的研究について概説する。(倉田 厚/5 回)発がんのメカニズムや、がんと細胞周期など、腫瘍学における分子病理学研究について担当する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

講義はあくまでも自己学習を手助けするものである。常に自ら学習、研究する姿勢が重要である。疑問点は積極的に質問し、問題解決を図る。

(2) 他の授業科目との関連性

生命現象の理解には、分子病理のみならず、生理学、薬理学、解剖学、免疫学を始めとした基礎医学の統合的な理解が必要である。常に他の科目で得られた知識を整理しながら、本科目も学習して欲しい。

(3) その他

3. 学生への評価方法

筆記試験ないし口頭試問を行う。合格点:60点を合格点とする。

4. 教科書・参考書など

Kumar V, Abbas AK, Fausto N, Aster J: Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease. 7th Edition, Saunders, 2009

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	4 月 10 日(水)	2	分子病理学概論	黒田
2	4 月 17 日(水)	2	分子病理学的解析法(I)	倉田
3	4 月 24 日(水)	2	分子病理学的解析法(II)	黒田
4	5 月 1 日(水)	2	分子病理学的解析法(III)	黒田
5	5 月 8 日(水)	2	発がん機構	黒田
6	5 月 15 日(水)	2	がんと細胞周期	黒田
7	5 月 22 日(水)	2	がんと染色体	黒田
8	5 月 29 日(水)	2	がんとエピジェネティクス	黒田
9	6 月 5 日(水)	2	実験動物の取り扱いと動物倫理	黒田
10	6 月 12 日(水)	2	動物モデル	黒田
11	6 月 19 日(水)	2	再生医療の展望	倉田
12	6 月 26 日(水)	2	分子診断(I)	倉田
13	7 月 3 日(水)	2	分子診断(II)	倉田
14	7 月 10 日(水)	2	分子診断(III)	倉田
15	7 月 17 日(水)	2	分子標的治療	黒田

生体機能医学特論Ⅲ(神経解剖学)

【責任者：〔組織・神経解剖学〕 石 龍徳 主任教授】

授業科目担当教員

〔組織・神経解剖学〕 北村 泰子 講師

〔組織・神経解剖学〕 北澤 宏理 講師

種別：必修科目

学期：1年後期

単位数：2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・神経系の構造と機能をシステムとして理解する。
- ・神経系の発生過程とその分子メカニズムを理解する。

(2) 授業の概要

神経系は人体の構造の中で最も複雑であり、我々の生活の全て(感覚、運動、高度な精神活動)に重要な働きをしている。この授業では神経系の各部位の構造を組織・細胞レベルで説明するとともに、全体をシステムとして捉える。

また、この複雑な神経系が構築される発生過程とその発生を引き起こす分子メカニズムを説明する。授業では、基本事項から最近のトピックまでを扱う。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特別な準備・予習はいらない。授業で疑問に思ったことは、授業中に質問すること。さらに参考書などで調べること。

(2) 他の授業科目との関連性

分子生理学や分子細胞生物学の基礎知識が必要である。

(3) その他

3. 学生への評価方法

出席とレポートにより評価する。

4. 教科書・参考書など

講義の時にプリントなどを配布する。参考書としては以下が便利である。

ベアー・コノーズ・パラディーソ「神経科学-脳の探求」(西村書店)

Wolpert 発生生物学(メディカル・サイエンス・インターナショナル)

Development of the nervous system, 3rd edition (Elsevier)

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	9 月 5 日(木)	2	脳とは何かを考える	石
2	9 月 12 日(木)	2	大脳の構造と機能	石
3	9 月 19 日(木)	2	視覚系から脳のシステムを考える	石
4	9 月 26 日(木)	2	大脳の進化と大脳辺縁系	石
5	10 月 3 日(木)	2	情動と記憶 1	石
6	10 月 10 日(木)	2	情動と記憶 2	石
7	10 月 17 日(木)	2	体性感覚	北村
8	10 月 24 日(木)	2	痛覚	北村
9	10 月 31 日(木)	2	神経系の興奮伝導に關与するイオンチャネルとシナプス伝達(末梢神経系)	北澤
10	11 月 7 日(木)	2	シナプス伝達(中枢神経系)とシナプス可塑性	北澤
11	11 月 14 日(木)	2	神経系の分子発生メカニズム 1	石
12	11 月 21 日(木)	2	神経系の分子発生メカニズム 2	石
13	11 月 28 日(木)	2	神経系の分子発生メカニズム 3	石
14	12 月 5 日(木)	2	神経系の分子発生メカニズム 4	石
15	12 月 12 日(木)	2	成体脳のニューロン新生	石

生体機能医学特論Ⅳ(分子薬理学)

【 責任者:〔薬理学〕 松岡 正明 主任教授 】

授業科目担当教員
〔医学総合研究所〕 稲津 正人 准教授
〔薬理学〕 橋本 祐一 講師

種別:必修科目

学期:1年前期

単位数:2 単位

1. 授業の目標・概要

(1)授業の目標

生命医学の正確な知識に基づき「科学的な視点から」薬物療法の基礎と本質を学ぶ。

(2)授業の概要

- 1)現代薬理学を理解するに必須の生命科学基本原理を系統的に理解する。
- 2)薬理学総論-特に薬物動態について理解する。
- 3)代表的な疾患のメカニズムを知り、それら疾患に対する最先端薬物療法の詳細を理解する。
- 4)アルツハイマー病/筋萎縮性側索硬化症の最先端治療法を理解する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1)授業への準備・予習

特になし

(2)他の授業科目との関連性

生命科学の基礎を十分理解することが薬理学を理解する上での必須事項である。

(3)その他

3. 学生への評価方法

・授業への出席、受講態度、口頭試問、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

参考書:田中千賀子、加藤隆一編:NEW薬理学(南江堂)／遠藤政夫編:医科薬理学(南山堂)

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	4 月 11 日(木)	1	薬理学総論Ⅰ	松岡正明
2	4 月 18 日(木)	1	基本概念Ⅱ 細胞情報伝達経路 細胞周期	松岡正明
3	4 月 25 日(木)	1	基本概念Ⅰ 細胞情報伝達経路 細胞周期	松岡正明
4	5 月 2 日(木)	1	アルツハイマー病治療薬研究Ⅰ	松岡正明
5	5 月 9 日(木)	1	薬理学総論Ⅱ-薬物体内動態	松岡正明
6	5 月 16 日(木)	1	自律神経作用薬Ⅰ	松岡正明
7	5 月 23 日(木)	1	自律神経作用薬Ⅱ	松岡正明
8	5 月 30 日(木)	1	中枢神経疾患治療薬	橋本祐一
9	6 月 6 日(木)	1	コリントランスポーターの薬理学	稲津正人
10	6 月 13 日(木)	1	循環器作用薬Ⅱ	松岡正明
11	6 月 20 日(木)	1	抗炎症薬／アレルギー治療薬	松岡正明
12	6 月 27 日(木)	1	抗悪性腫瘍薬Ⅰ	松岡正明
13	7 月 4 日(木)	1	抗悪性腫瘍薬Ⅱ	松岡正明
14	7 月 11 日(木)	1	循環器作用薬Ⅱ	松岡正明
15	7 月 18 日(木)	1	アルツハイマー病治療薬研究Ⅱ	松岡正明

生体機能医学特論Ⅴ(感染症学)

【責任者：〔微生物学〕 松本 哲哉 主任教授】

授業科目担当教員
〔微生物学〕 小林 了 准教授

種別：必修科目

学期：1年前期

単位数：2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

基礎と臨床の両面から感染症をとらえ、微生物の特徴とそれによって引き起こされる感染症の病態について考えを深めることができるようにする。

(2) 授業の概要

各種微生物の特徴および各種疾患の診断、治療の概略を学ぶ。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

格段の事前の準備は不要であるが、興味ある感染症の領域があれば、それに関する書籍を読んできて欲しい。

(2) 他の授業科目との関連性

感染の病態という面で免疫学との関連が大きい。

(3) その他

特になし。

3. 学生への評価方法

授業への出席、受講態度、記述試験、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

指定の教科書はなし。

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	4 月 9 日(火)	1	感染症の歴史	松本
2	4 月 16 日(火)	1	微生物の特徴	松本
3	4 月 23 日(火)	1	細菌感染症(グラム陽性菌)	松本
4	4 月 30 日(火)	1	ウイルス感染症(1)	小林
5	5 月 7 日(火)	1	細菌感染症(グラム陰性菌)	松本
6	5 月 14 日(火)	1	結核、非結核性抗酸菌感染症	松本
7	5 月 21 日(火)	1	真菌感染症	松本
8	5 月 28 日(火)	1	ウイルス感染症(2)	小林
9	6 月 4 日(火)	1	ウイルス感染症(3)	小林
10	6 月 11 日(火)	1	感染症の診断法	松本
11	6 月 18 日(火)	1	感染症の治療法	松本
12	6 月 25 日(火)	1	日和見感染症	松本
13	7 月 2 日(火)	1	耐性菌の動向	松本
14	7 月 9 日(火)	1	感染症の予防	松本
15	7 月 16 日(火)	1	院内感染対策	松本

生体機能医学特論VI(分子免疫学)

【責任者:〔免疫学〕 水口 純一郎 主任教授】

授業科目担当教員

〔免疫学〕 浅倉 英樹 講師

〔免疫学〕 高田 栄子 講師

種別:必修科目

学期:1年前期

単位数:2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

生命科学の知識に基づいて免疫システムを理解すると共に免疫関連疾患の病態や治療・予防法を学ぶ。

(2) 授業の概要

免疫担当細胞であるリンパ球の成熟・分化の仕組みを理解すると共にリンパ球の活性化をもたらす細胞内シグナル伝達経路を学ぶ。自然免疫と適応免疫からなる免疫システム及び自己寛容の成立機序を学び、感染免疫、自己免疫、腫瘍免疫、アレルギーの基本的な成り立ちを学ぶ。さらに気管支喘息の臨床、治療薬および動物モデルを用いた気管支喘息の病態について学ぶ。資料は授業ごとに担当教員がハンドアウトを配布する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

教科書や参考書を用いて講義内容を予習しておくこと。

(2) 他の授業科目との関連性

免疫系の全体像を把握しておくことと病態生理を理解しやすい。

(3) その他

- ・单元ごとのつながりを理解する。
- ・疑問点については解決しておく。

3. 学生への評価方法

授業は出席、受講態度、記述試験、口頭試問、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

教科書: Abul K. Abbas, Andrew H. Lichtman “Basic Immunology” Saunders

参考書: 笹月健彦監訳“エッセンシャル免疫学”

メディカル・サイエンス・インターナショナル

菊池浩吉編集 “医科免疫学” 南江堂

多田富雄訳 “免疫学イラストレイテッド” 南江堂

緒方幸雄監修 “微生物免疫学” 医学教育出版社

熊ノ郷 淳他編集 “免疫学コア講義” 南山堂

矢田純一著 “医系免疫学” 中外医学社

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	4 月 10 日(水)	1	免疫学概論	水口純一郎
2	4 月 17 日(水)	1	自然免疫と適応免疫	水口純一郎
3	4 月 24 日(水)	1	B 細胞の成熟・分化の仕組み	水口純一郎
4	5 月 1 日(水)	1	T 細胞の成熟・分化の仕組み	水口純一郎
5	5 月 8 日(水)	1	B 細胞活性化と細胞内シグナル伝達	水口純一郎
6	5 月 15 日(水)	1	T 細胞活性化と細胞内シグナル伝達	水口純一郎
7	5 月 22 日(水)	1	制御性 T 細胞(Trg)	水口純一郎
8	5 月 29 日(水)	1	自己寛容誘導の仕組み	浅倉 英樹
9	6 月 5 日(水)	1	感染免疫総論	浅倉 英樹
10	6 月 12 日(水)	1	自己免疫総論	浅倉 英樹
11	6 月 19 日(水)	1	腫瘍免疫総論	高田 栄子
12	6 月 26 日(水)	1	腫瘍免疫の最前線	水口純一郎
13	7 月 3 日(水)	1	アレルギー総論	高田 栄子
14	7 月 10 日(水)	1	気管支喘息(I)	高田 栄子
15	7 月 17 日(水)	1	気管支喘息(II)	高田 栄子

公衆衛生学特論

【 責任者：〔公衆衛生学〕 井上 茂 主任教授 】

授業科目担当教員

〔公衆衛生学〕 安部 由美子 講師
〔公衆衛生学〕 小田切 優子 講師
〔公衆衛生学〕 高宮 朋子 講師

種別：必修科目

学期：1年後期

単位数：2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

社会的存在として、人の出生から死亡にいたるライフサイクルの中で、様々な事象を医学的側面と社会的側面の両面から考究し、疾病予防と健康増進の考え方を理解する。また、我が国における公衆衛生全般の制度・政策について理解し、公衆衛生学における医学研究を実施するための基本的な知識及びスキルを体得する。

(2) 授業の概要

- ・ 人の健康に関与する要因と、その社会医学的対応の技術を学ぶ。
- ・ 地域保健、母子保健、学校保健、産業保健について理解する。
- ・ 保健、医療、福祉及び介護に関する制度についての基礎知識を習得する。
- ・ 研究の倫理とともに、疫学の指標及び研究デザイン、統計手法を理解する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

- ・ 事前に参考教科書における授業関連部分を読んでおくことを推奨するが、公衆衛生学の範囲は極めて広く教科書だけによる学習は不十分のことがあるため、講義を疎かにし教科書だけによる学習は極めて困難である。
- ・ 講義資料は教科書だけではカバーしきれない分野もあるため、基本的に授業ごとに担当教員がハンドアウトを配布する。

(2) 他の授業科目との関連性

(3) その他

3. 学生への評価方法

- ・ 授業への出席、受講態度、記述試験、レポート等により総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

NEW 予防医学・公衆衛生学(南江堂)を参考教科書とする。

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	9 月 5 日(木)	1	公衆衛生とは	井上
2	9 月 12 日(木)	1	国民の健康水準	安部
3	9 月 19 日(木)	1	予防医学・健康増進・生活習慣病対策	高宮
4	9 月 26 日(木)	1	地域保健活動と保健医療行政	安部
5	10 月 3 日(木)	1	母子保健・学校保健	安部
6	10 月 10 日(木)	1	精神保健福祉	小田切
7	10 月 17 日(木)	1	生活環境保健	小田切
8	10 月 24 日(木)	1	高齢者医療と福祉・介護	高宮
9	10 月 31 日(木)	1	食品保健・感染症	高宮
10	11 月 7 日(木)	1	産業保健	小田切
11	11 月 14 日(木)	1	疫学 1:疫学指標	井上
12	11 月 21 日(木)	1	疫学 2:疫学研究法	井上
13	11 月 28 日(木)	1	疫学 3:研究実施・論文作成のルール	井上
14	12 月 5 日(木)	1	疫学 4:スクリーニング	小田切
15	12 月 12 日(木)	1	疫学 5:統計手法	安部

生体病態医学特論 I (リウマチ膠原病・神経内科学)

【責任者:〔リウマチ・膠原病内科〕 沢田 哲治准教授】

授業科目担当教員

〔神経内科〕 赫 寛雄講師

種別:選択科目

学期:1年後期

単位数:1単位

1. 授業の目標・概要

<リウマチ膠原病学>

(1) 授業の目標

近年の免疫学やゲノム医学などの進歩により、リウマチ性疾患の病因・病態の解明は著しく、また、その治療も生物学的製剤や分子標的薬の登場により飛躍的に進歩している。本講義の目標はリウマチ性疾患の概念や病態、診断、治療について理解を深めることである。

(2) 授業の概要

リウマチ性疾患、膠原病では、非特異的な全身症状とともに特徴的な症状が多臓器にわたって認められることが多い。講義ではリウマチ性疾患の臨床診断プロセス(免疫血清学的検査の意義を含む)を解説する。さらに、リウマチ性疾患の病因や病態形成、治療薬の作用機序について考察する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

基礎免疫学および内科学一般、臨床推論に関する知識を有していることが望ましい。

(2) 他の授業科目との関連性

リウマチ性疾患は多彩な臨床症状を呈する。その中から病態の本態を理解し、患者のADLや生命予後を決定づける臓器病変の出現と重症度を把握し、適切な治療計画を立案するには、リウマチ性疾患自体に通じていることは勿論、医学全般にわたる広い知識が必要である。

(3) その他

継続して受講しないと全体像の把握が難しくなる。

3. 学生への評価方法

授業への出席、受講態度、記述試験、レポート等により総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

1. Kelley's Textbook of Rheumatology Firestein GS 編 (Elsevier)
2. Arthritis and Allied Conditions Koopman WJ 編 (Lippincott Williams & Wilkins)
3. リウマチ病診療ビジュアルテキスト(医学書院)

<神経内科学>

(1) 授業の目標

神経内科学には、脳血管障害、変性疾患、筋疾患、末梢神経疾患、神経免疫疾患、神経感染症等の多彩な領域が含まれる。まず、個々の臨床神経症候を機能解剖と関連付けて理解し、特徴ある診断プロセス(局所診断、病因診断)について学ぶ。同時に神経放射線学的、また分子生物学的手法を用いた最新の検査法について理解をする。そして現行の治療法と、今後期待されている新たな治療法について学ぶ。

(2) 授業の概要

初めに総論として神経機能解剖、臨床神経症候、神経放射線学的・生理学的検査法について解説を行い、系統的な診断プロセス(局所診断、病因診断)について理解する。各論では主要疾患(変性疾患、脳血管障害、神経免疫疾患)を取り上げて、疾患概念、病因、病態、治療について実例を提示して解説を行う。また各疾患の病態解明に向けた最先端のトピックスについて触れる。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

臨床神経学は、神経解剖学、神経生理等の基礎的神経科学の理解から始まる。
神経系の基礎的知識の復習を充分された上で出席されたい。

(2) 他の授業科目との関連性

臨床神経学は、他の内科系領域のみならず、外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、泌尿器科学等多くの領域と密接な関係を持つ学問である。

(3) その他

特になし

3. 学生への評価方法

・授業への出席、受講態度、記述試験、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

- 1.「ベッドサイドの神経の診かた(改定17版)」、田崎義昭、斎藤佳雄 著、南山堂、2010
- 2.「標準神経病学(第2版)」水野美邦 編、医学書院、2012
- 3.「神経内科ハンドブック(第4版)」、水野美邦 編、医学書院、2010
- 4.「神経症候学(改定第2版)」、平山恵造 著、文光堂、2010

6. 授業内容・日程

回	月日	時限	内容	担当者
1	9月5日(木)	5	自己免疫疾患の概念	沢田
2	9月12日(木)	5	膠原病の臨床症状	沢田
3	9月19日(木)	5	膠原病の臨床検査(自己抗体を含む)	沢田
4	9月26日(木)	5	自己免疫疾患とその治療	沢田
5	10月2日(水)	5	神経学総論	赫
6	10月9日(水)	5	神経変性疾患	赫
7	10月16日(水)	5	脳血管障害	赫
8	10月23日(水)	5	神経免疫疾患	赫

生体病態医学特論Ⅱ(生体侵襲制御学)

【責任者：〔麻醉科学〕 内野 博之 主任教授】

種別：選択科目

学期：1 年後期

単位数：1 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

麻醉科学を構成する手術麻酔に携わる周術期管理学、全身管理を行う集中治療医医学ならびに疼痛管理を目指すペインクリニック学および蘇生学の果たす役割をエビデンスに基づいて学ぶ。

(2) 授業の概要

授業と手術室、集中治療室、ペインクリニック外来における実習を行う。

- ・ 麻醉科学の実際と麻酔薬作用機序を理解する。
- ・ 麻醉科学を理解するための生理学・薬理学の基礎知識を習得する。
- ・ 呼吸管理、循環管理、代謝管理を理解する。
- ・ 術前・術中・術後までの全身管理を通じてエビデンスに基づく生体侵襲防御、周術期全身管理
- ・ 疼痛管理の実際を学び、麻酔科学の果たす役割を理解する。
- ・ 麻酔科学と蘇生学の繋がりを理解する。蘇生学のあり方を理解する。
- ・ 資料は授業ごとに担当教員がハンドアウトを配布する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

授業後に各自が、教科書等で授業内容を予習および復習することで理解を深めるように心掛ける。

(2) 他の授業科目との関連性

各授業が麻酔科学を構成する一つ一つの要素なるため、各授業内容を把握することで麻酔科学に対する理解を深めることが可能となる。

(3) その他

3. 学生への評価方法

- ・ 授業への出席、受講態度、記述試験、口頭試問、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

標準麻酔科学：医学書院

脳保護。脳蘇生：克誠堂出版

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	9 月 6 日(金)	2	生体侵襲制御学概論(麻醉科学概論)	内野
2	9 月 13 日(金)	2	麻醉科学と呼吸管理、血液ガス、酸塩基平衡	内野
3	9 月 20 日(金)	2	麻醉科学と循環管理、循環器作用薬	内野
4	9 月 27 日(金)	2	麻醉科学と局所麻醉薬/麻薬・麻薬補助薬、自律神経	内野
5	10 月 4 日(金)	2	麻酔薬と作用機序/筋弛緩薬、各種手術の麻酔管理	内野
6	10 月 11 日(金)	2	ペインクリニック学	内野
7	10 月 18 日(金)	2	血液凝固、輸液および輸血	内野
8	10 月 25 日(金)	2	集中治療医学と蘇生学	内野

生体病態医学特論Ⅳ(呼吸器・甲状腺学)

【責任者:〔外科学(1)〕 池田 徳彦 主任教授】

授業科目担当教員

〔外科学(1)〕 筒井 英光 教授

〔外科学(1)〕 大平 達夫 准教授

種別:選択科目

学期:1 年後期

単位数:2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・呼吸器、甲状腺の解剖・機能を理解する。
- ・呼吸器、甲状腺の疾患の基礎と臨床を理解する。

(2) 授業の概要

- ・基礎的事項(機能と解剖など)
- ・診断方法、病期診断
- ・治療法
- ・注目すべき研究内容に関し、講義する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

推奨されたテキストの該当分野を一読することが望ましい。

(2) 他の授業科目との関連性

生体機能医学と関連を有する内容があるので、適時フィードバックすることが望ましい。

(3) その他

3. 学生への評価方法

レポート、テストともに講義への出席状況、講義での質疑応答など、総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

標準外科学(医学書院)

呼吸器外科学(南山堂)

肺癌取扱い規約(金原出版)

肺癌診療ガイドライン(金原出版)

Principles & Practice of Lung Cancer (Lippincott Williams & Wilkins)

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	9 月 3 日(火)	5	呼吸器・甲状腺の解剖と生理	大平・筒井
2	9 月 10 日(火)	5	呼吸器疾患総論	池田
3	9 月 17 日(火)	5	呼吸器疾患の疫学と診断	池田
4	9 月 24 日(火)	5	呼吸器疾患の治療総論	池田
5	10 月 1 日(火)	5	肺癌の診断・病期分類	池田
6	10 月 8 日(火)	5	肺癌の標準治療(病期 I/II)	池田
7	10 月 15 日(火)	5	肺癌の標準治療(病期 III/IV)	池田
8	10 月 22 日(火)	5	肺癌のトランスレーショナルリサーチ	大平
9	10 月 29 日(火)	5	肺癌の形態学(病理・細胞診)	大平
10	11 月 5 日(火)	5	呼吸器の良性疾患	池田
11	11 月 12 日(火)	5	縦隔腫瘍	池田
12	11 月 19 日(火)	5	甲状腺疾患総論	筒井
13	11 月 26 日(火)	5	甲状腺癌の診断と治療	筒井
14	12 月 3 日(火)	5	甲状腺の良性疾患・副甲状腺疾患	筒井
15	12 月 10 日(火)	5	気道のレーザー診断・治療	池田

医学教育学特論

【 責任者：〔医学教育学〕 泉 美貴 教授 】

授業科目担当教員

〔医学教育学〕 大滝 純司 兼任教授

種別：選択科目

学期：1 年後期

単位数：2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

医学に関する教員を目指す大学院生にとって、基本的な医学教育の理論とスキルを理解すること、医学教育の本邦と世界的な現状を知ることなどを通じ、指導者になった場合に必要となる基本的な医学教育知識と技術を習得する。

(2) 授業の概要

医学教育における基本的な学習理論、学習方法やスキルの教育法、ベッドサイド教育における学習法および評価法などの医学教育に基本的な理論や技法などを習得する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

特になし

(3) その他

特記すべき事なし

3. 学生への評価方法

出席(40%)、授業での発言や態度(20%)、レポート(40%)

4. 教科書・参考書など

- ・Johe Dent ,Ronald Harden. A Practical Guide for Medical Teachers Third Edition, Churchill Livingstone, London, 2009.
- ・Tim Dornan, Karen Mann, et all. Medical Education Theory and Practice, Churchill Livingstone, London, 2011.
- ・リチャード・クルーズ他編著、日本医学教育学会倫理プロフェッショナリズム委員会監訳、医療プロフェッショナリズム教育—理論と原則、日本評論社、2012.
- ・大西弘高. 新医学教育入門—教育者中心から学習者中心へ、医学書院、2005.
- ・岐阜大学医学教育開発研究センター監修、日本の医学教育の挑戦、篠原出版新社、2012.
- ・日本医学教育学会編集、医学教育白書 2010 年版、篠原出版新社、2010.

6. 授業内容・日程

回	月 日	時限	内容	担当者
1	9 月 6 日(金)	5	医学教育の改革・学習理論	大滝
2	9 月 13 日(金)	5	カリキュラムの開発と運営	泉
3	9 月 20 日(金)	5	学習環境・学習方法・学習スキルの教育	泉
4	9 月 27 日(金)	5	教材の設計と開発	泉
5	10 月 4 日(金)	5	基礎医学教育と臨床医学教育	泉
6	10 月 11 日(金)	5	ベッドサイド教育・外来教育・地域における教育	大滝
7	10 月 18 日(金)	5	シミュレーションによる教育	大滝
8	10 月 25 日(金)	5	e-ラーニング	泉
9	11 月 1 日(金)	5	コミュニケーションスキル教育・倫理と態度の教育	大滝
10	11 月 8 日(金)	5	医療情報・EBM教育	大滝
11	11 月 15 日(金)	5	評価の原則・合否判定基準・筆記試験	泉
12	11 月 22 日(金)	5	入学試験・パフォーマンスの評価・診療現場における評価	大滝
13	11 月 29 日(金)	5	キャリアパスの教育・医師の労働環境	泉
14	12 月 6 日(金)	5	外国語による質問紙調査票の翻訳と活用1)	泉
15	12 月 13 日(金)	5	外国語による質問紙調査票の翻訳と活用2)	泉

東京医科大学長 殿

指導教授印

大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）
選択科目 履修届

入学年度 平成 年度入学

第 学年 学籍番号

専攻 医科学専攻

研究分野

フリガナ
氏名 印

下記科目を履修したいので、お届けいたします。

希望する科目	授業科目の名称	配当年次	単位数
	生体病態医学特論Ⅰ (リウマチ膠原病・神経内科学)	1年後期	1
	生体病態医学特論Ⅱ (生体侵襲制御学)	1年後期	1
	生体病態医学特論Ⅲ (循環器病学)	1年後期	2
	生体病態医学特論Ⅳ (呼吸器・甲状腺学)	1年後期	2
	医学教育学特論	1年後期	2
	医療安全学特論	2年前期	2

※「希望する科目」欄、2単位以上の科目に○印をしてください。

(注1) 4月12日までに医学科学務課に提出してください。

(注2) 選択科目の履修登録の変更は、4月19日までとします。

